

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	上天草市松島庁舎 兼 保健センター新築工事	階数	地上3F
建設地	熊本県上天草市松島町合津7915-5	構造	木造
用途地域	都市計画区域外、指定なし	平均居住人員	500 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	2,160 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年2月 予定	評価の実施日	2012年7月6日
敷地面積	10,928 m ²	作成者	
建築面積	1,905 m ²	確認日	2012年7月7日
延床面積	3,335 m ²	確認者	



1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.3

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★★
80%超100%以下	★★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率

83%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	92.2
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	80.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	102.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	82.5

評価点

90

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★★
80点以上100点未満	★★★★★
60点以上80点未満	★★★★
40点以上60点未満	★★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	上天草市松島庁舎 兼 保健センター新築工事	階数	地上3F
建設地	熊本県上天草市松島町合津7915-5	構造	木造
用途地域	都市計画区域外、指定なし	平均居住人員	500 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	2,160 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年2月 予定	評価の実施日	2012年7月6日
敷地面積	10,928 m ²	作成者	
建築面積	1,905 m ²	確認日	2012年7月7日
延床面積	3,335 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	400%
②建築物の取組み	83%
③上記+②以外の	83%
④上記+	83%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 90**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 92**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 80**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 103**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 83**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
 上天草市松島庁 兼 保健センター新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.0
1 音環境				1.8	0.15	-	-	1.8
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				1.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				1.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				1.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				1.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				2.7	0.35	-	-	2.7
2.1 室温制御				3.2	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能		SC:0.51、U:4.5、外壁U:0.35 市民窓口課		4.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.6	0.25	-	-	3.6
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率 2.5%		5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御		ルーバー、ブラインドの設置		4.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の積極的な採用		4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レンオホラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		平均値0.132(1/10以上)		5.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙 喫煙室なし		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の円滑化基準を満足		4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高:2.7m		4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		建物全体が禁煙 自動販売機の設置 (A棟1階ロビー)		4.0	0.33	-	-	
3 内装計画		コンセプトの設定		4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.5	0.31	-	-	3.5
2.1 耐震・免震				3.8	0.48	-	-	
1 耐震性		建築基準法の1.25倍の割増		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		杉羽目板貼(60年)		5.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		屋外受変電盤(20年)		4.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新							
2.4 信頼性			3.4	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用	4.0	0.20			
3	電気設備	非常用発電設備の設置	4.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.4	0.29			3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31			
1	階高のゆとり	平均階高:3.9m	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	比率:0.21	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性			3.0	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11			
4	通信配線の更新性	構造部材、仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11			
5	設備機器の更新性		1.0	0.22			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				0.30			2.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺景観との調和	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	公共的施設・機能を備える	4.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.4
LR1 エネルギー				0.40			3.4
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30			3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		LED照明、高効率空調の採用	4.4	0.30			4.4
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	4.0				
		集合住宅の評価	3.0				
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				0.30			3.7
1 水資源保護			3.4	0.15			3.4
1.1	節水	自動水栓、節水型機器	4.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63			3.8
2.1	材料使用量の削減		-	-			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.26			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	集成材、再生クラッシュラン	4.0	0.22			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	使用比率 50%以上	5.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	可動間仕切りを使用	5.0	0.26			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22			3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68			
1	消火剤		-	-			
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウールを使用	5.0	0.50			
3	冷媒		3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮		リサイクル材の使用	3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮			3.0	0.33			3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	自転車置場の確保、駐車スペース・駐車施設の確保	4.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動		-	-			
3	悪臭		-	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制		3.0	-			
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足、広告物照明の取扱いなし	5.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

①安全性の高い庁舎②誰もが利用しやすい庁舎③防災対策の拠点となる市民を守る庁舎④木の香りがする健康的でやさらぎのある庁舎⑤地球環境にやさしい木の庁舎⑥省エネ対策を施した庁舎⑦地域産材の活用で地産地消に寄与する庁舎という特徴をもつ。

Q1 室内環境

- ・十分な開口を設けることにより、良好な昼光を取り入れることができる。
- ・全面禁煙とし、非喫煙者にとって煙に曝されない環境となっている。
- ・F☆☆☆☆の積極的な採用により汚染物質の最小化に努める。

Q2 サービス性能

- ・事務所部の天井高を2.7mとし利用者の快適性の向上に努めた。
- ・更新必要間隔の長い内装仕上げ材、主要設備機器を採用し耐久性に努める。
- ・積極的な節水機器の採用で、節水を図る。
- ・耐震性能の割増により、地震時の安全性を高める。
- ・建物の空間の形状・自由さを確保し将来の仕様変更にも対応している。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・周囲の景観と調和のとれた外観とし、地域のランドマークとなる。
- ・地域における木材の地産地消に繋げ、地域の活性化を図る。

LR1 エネルギー

- ・LED照明、高効率空調設備を採用することで省エネルギーに努める。

LR2 資源・マテリアル

- ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっており、解体の際にリサイクルを促進する。
- ・リサイクル材の積極的採用により資源の有効利用に努める。

LR3 敷地外環境

- ・自転車置場、駐車スペースを確保しており、交通負荷の抑制に努める。
- ・広告物照明を扱っていない。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート 実施設計段階

建物名称 **上天草市松島庁舎 兼 保健センター新築工事**

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	89.9	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				92.2	0.40	36.88
Q1-2.1.3	外皮性能	4.0	0.06			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.06			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.06			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.17			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.22			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.4	0.33			
LR2-2.1	材料使用量の削減	0.0	0.00			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.11			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				80	0.20	16.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				102.5	0.20	20.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				82.5	0.20	16.50
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.1	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数